

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	建物	500,000	現金預金	800,000
	修繕引当金	200,000	未払金	600,000
	修繕費	700,000		
2	前受金	500,000	売上	500,000
	売掛金	300,000	受託販売	300,000
	発送費	6,000	現金預金	10,000
	受託販売	4,000		
3	租税公課	200,000	未払消費税	200,000
4	売買目的有価証券	4,777,500	現金預金	4,803,200
	有価証券利息	25,700		
5	減価償却費	180,000	車両減価償却累計額	180,000
	車両	3,000,000	車両	2,000,000
	車両減価償却累計額	1,380,000	未払金	2,900,000
	固定資産売却損	520,000		

・解説

1. 固定資産の改良と修繕に関する問題です。改良と修繕に関しては、①修繕のみを問われる問題と②改良と修繕の両方を問われる問題の2つに分けることが出来ますが、本問は②のケースに該当します。

それでは早速、考えていきましょう。改良と修繕の両方を問われた場合は、耐用年数を延長させたり、その価値を高めるような支出（資本的支出）については、固定資産の帳簿価額に当該事実を反映させるために資産の増加として処理し、定期修繕など建物の諸機能を維持するための支出（収益的支出）については、当期の費用として処理することになります。

本問は、問題文に「このうち 500,000 円については建物の耐震構造を強化する効果があると認められた」とありますので、当該 500,000 円の支出を資本的支出として処理することになります。

残額 900,000 円については、収益的支出として全額費用処理・・・したいところですが、本問は前

期以前に計上した修繕引当金が 200,000 円ありますので、当該 200,000 円については修繕引当金を取り崩し、足りない分の 700,000 円について修繕費を計上して費用処理することになります。

固定資産の改良と修繕に関する問題は、第 100 回の問 1や第 102 回の問 4、第 110 回の問 1、第 111 回の問 5、第 115 回の問 3、第 119 回の問 2、第 123 回の問 5でも出題されていますので、併せてご確認ください。

2. 特殊商品売買の受託販売に関する問題です。本問は、【X商品の販売に関する仕訳】と【Y商品の販売に関する仕訳】と【発送費に関する仕訳】の3つに分けて考えることをおすすめします。では早速、本問に・・・とその前に、受託販売について簡単におさらいしておきましょう。

受託した商品を売り上げた場合、販売先から代金を受け取るのは当社ですが、それは委託者が受け取るべきものを一時的に預かっているだけにすぎません。そこで受託販売を行った場合は、受け取った代金を預り金勘定の性質をもつ「受託販売」勘定で一時的に処理しておくことになります。

■ X商品の販売に関する仕訳

問題文に「X商品については予約受付時に代金の全額を予約金として受け取っており」とありますので、まずは予約金を受け取った時に切った仕訳を考えます。

☆参考・予約金を受け取った時の仕訳

(借) 現金など 500,000 / (貸) 前受金 500,000

上記の仕訳を踏まえたうえで、X商品の販売に関する仕訳を切ることになりますが、特に問題はないと思います。

★解答①

(借) 前受金 500,000 / (貸) 売上 500,000

■ Y商品の販売に関する仕訳

次に、Y商品の販売に関する仕訳を考えていきますが、売上勘定ではなく受託販売勘定を使って処理する点に気をつければ後は特に問題ないはずです。

★解答②

(借) 売掛金 300,000 / (貸) 受託販売 300,000

■ 発送費に関する仕訳

最後に発送費に関する仕訳ですが、これは全額発送費として費用処理・・・したいところですが、問題文に「**発送費のうち 4,000 円については、織田商店負担分である**」とありますので、当店負担分（X商品に関する発送費）と織田商店負担分（Y商品に関する発送費）に費用按分する必要があります。

ただ、処理は全然難しくありません。当店負担分の 6,000 円については、いつも通り発送費として費用処理するだけで、織田商店負担分に関しては受託販売の取引コストの一部になりますので、解答②で貸方に計上した「預り金」の性質をもつ受託販売勘定を 4,000 円だけ減らすだけです（預かっている 300,000 円から 4,000 円の発送費を立て替え払いしたイメージ）

★ 解答③

(借) 発送費 6,000 / (貸) 現金預金 10,000

(借) 受託販売 4,000

上記の①②③の仕訳をまとめると解答になります。なお、別解として以下のような仕訳も考えられますので、参考までにご紹介させていただきます。

☆ 参考・別解

(借) 前受金 500,000 / (貸) 売上 500,000

(借) 売掛金 300,000 (貸) 受託販売 296,000

(借) 発送費 6,000 (貸) 現金預金 10,000

受託販売に関する問題は、特殊商品売買の頻出論点で、第 100 回の問 2や第 101 回の問 2、第 105 回の問 3、第 112 回の問 4、第 113 回の問 1、第 114 回の問 5、第 118 回の問 2、第 125 回の問 5、第 126 回の問 1、第 128 回の問 4でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

3. 消費税に関する問題です。問題文に「**消費税の会計処理は税込方式によっている**」とありますので、期中において仮払消費税勘定・仮受消費税勘定を使わずに処理していたことが分かります。

☆ 参考・期中において既に切られた仕訳

(借) 現金など 12,600,000 / (貸) 売上 12,600,000

☆ 参考・期中において既に切られた仕訳

(借) 仕入 8,400,000 / (貸) 現金など 8,400,000

税込方式を採用していた場合、消費税の納税額が確定した時点で**租税公課勘定と未払消費税勘定を使って処理すること**になります。仮払消費税勘定・仮受消費税勘定は使わない点に注意してください。

★解答

(借) 租税公課 200,000 / (貸) 未払消費税 200,000

☆参考・翌期以降に未払分を納付した際の仕訳

(借) 未払消費税 200,000 / (貸) 現金など 200,000

■では、せっかくですから税抜方式だった場合も押さえておきましょう。税抜方式の場合、期中において仮払消費税勘定・仮受消費税勘定を使って処理しておき、納付税額が確定した時点で仮払消費税勘定と仮受消費税勘定を相殺する仕訳を切ることになります。借方残の場合は貸方に未払消費税勘定を計上し、翌期以降に未払分を納付することになります。

☆参考・期中において既に切られた仕訳

(借) 現金など 12,600,000 / (貸) 売上 12,000,000
(貸) 仮受消費税 600,000

☆参考・期中において既に切られた仕訳

(借) 仕入 8,000,000 / (貸) 現金など 8,400,000
(借) 仮払消費税 400,000

☆参考・消費税の納税額が確定した際の仕訳

(借) 仮受消費税 600,000 / (貸) 仮払消費税 400,000
(貸) 未払消費税 200,000

☆参考・翌期以降に未払分を納付した際の仕訳

(借) 未払消費税 200,000 / (貸) 現金など 200,000

消費税に関する問題は、第 104 回の問 3や第 110 回の問 2、第 117 回の問 3でも出題されていますので併せてご確認ください。なお、第 104 回・第 110 回・第 124 回は税込方式で、第 117 回は税抜方式で問われていますので、どちらかというとな税込方式の方が重要ですが、対比して考えると理解が深まりますので、必ず両方とも出来るようにしておいてください。

4. 有価証券の購入に関する問題です。本問は、【有価証券の購入に関する仕訳】と【有価証券利息に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいと思います。

■有価証券の購入に関する仕訳

売買目的で有価証券を購入した場合は、取得原価に付随費用（取得に伴い発生した費用）を含めて資産計上することになります。

$$\text{取得原価 (4,777,500 円)} = \text{購入代価 (5,000,000} \times 0.9545 = 4,772,500) + \text{付随費用 (5,000 円)}$$

★解答①

(借) 売買目的有価証券 4,777,500 / (貸) 現金預金 4,777,500

■有価証券利息に関する仕訳

問題文に、「利払日は3月末日と9月末日の年2回である。また、端数利息の金額については、1年を365日として日割で計算する」とありますので、4月1日から6月12日までの73日分（30日+31日+12日）の端数利息に関する仕訳を切ることになります。

$$\text{有価証券利息} = 5,000,000 \times 0.0257 \times 73 \text{ 日} \div 365 \text{ 日} = 25,700 \text{ 円}$$

★解答②

(借) 有価証券利息 25,700 / (貸) 当座預金 25,700

ところで、上記の仕訳について、なぜ前回の利払日の翌日から購入日までの端数利息を支払わなければいけないかはお分かりですか？

答えは・・・有価証券購入時に、前回の利払日の翌日から購入日（4月1日から6月12日までの73日）まで端数利息を先に支払っておかないと、次回の利払日に半年分（4月1日から9月30日までの半年分）の利息を受け取ることになるため、**保有していなかった期間（4月1日から6月12日までの73日）の分まで余分に利息をもらってしまうことになるから**です。

そこで、購入時に前回の利払日の翌日から購入日までの端数利息を支払うことによって、保有期間に見合った正しい利息（半年分の利息－73日分の利息）を計上できるようになるわけです。

有価証券の購入に関する問題は、第102回の問3でも出題されていますが、同じ有価証券に関する問題でも【売却に関する仕訳】のほうが出題頻度が高いですので、まずはそちらを優先するようにしてください。

5. 固定資産の買換に関する問題です。本問はまず減価償却費を算定しますが、これは単に走行距離に応じた減価償却費を計上するだけです。特に問題はないと思います。

$$\text{当期の減価償却費} = 2,000,000 \text{ 円} \times 0.9 \times 15,000 \text{ km} \div 150,000 \text{ km} = 180,000 \text{ 円}$$

★解答①・・・減価償却費の計上

(借) 減価償却費 180,000 / (貸) 車両減価償却累計額 180,000

次に、買換え時点での車両の減価償却累計額を算定する必要がありますが、前期末累計額 1,200,000 円 + 当期の減価償却費 180,000 円 = 1,380,000 円と簡単に算定できますので特に問題はないと思います。固定資産の売却損益は、**帳簿価額と売却価額（下取り価額）の差額**で求めることができます。

■固定資産の帳簿価額 = 2,000,000 円 - 1,380,000 円 = 620,000 円

■固定資産の売却価額 = 100,000 円

■差額 = 520,000 円（帳簿価額 > 売却価額・・・売却損）

最後に、新車両を購入した際の仕訳を切りますが、これはいつも通りの仕訳を切るだけです。

★解答②・・・固定資産売却&新車両購入の仕訳

(借) 車両減価償却累計額 1,380,000 / (貸) 車両 2,000,000

(借) 固定資産売却損 520,000 (貸) 未払金 2,900,000

(借) 車両 3,000,000

以上、①②の仕訳をまとめて解答用紙に記入すれば完了です。なお、別解として以下のような仕訳も考えられますので、参考までにご紹介させていただきます。

☆別解

(借) 車両 3,000,000 / (貸) 車両 2,000,000

(借) 車両減価償却累計額 1,200,000 (貸) 未払金 2,900,000

(借) 減価償却費 180,000

(借) 固定資産売却損 520,000

固定資産の買換えに関する問題は、第 106 回の問 5 でも出題されていますので、併せてご確認ください。